

[特集] シリコンバレーはもう古い? — 変わるスタートアップの地政学

NIKKEI
BUSINESS

日経ビジネス

2021 08.30
— No.2105 —



THE NEXT SILICON VALLEY

特集

シリコンバレーは
もう古い?

変わるスタートアップの地政学

スペシャルレポート

石炭火力、輸出窮地
「移行技術」で市場開拓

不屈の路程

創るをつくるために

土屋裕雅 カインズ会長

“お客様の困り事”に応える
庫内物流システム

「物流で感動を届けたい」 先進性と徹底的な現場目線で 物流現場の改善をサポート

「モノづくり」から「モノ配り」のための物流現場へ。倉庫の役割が大きく変わる中、「物流業界の風雲児」と呼ばれるジャロックは、お客様の困り事に応える先進的な庫内システムを提供している。「物流で感動を届けたい」という同社の思いと取り組みに迫った。

多品種少量化する倉庫業務に 最適化された ソリューションを提供

“巣ごもり消費”によるEC（電子商取引）の急成長とともに、物流倉庫の役割は大きく変わっている。メーカーが自社商品を大量保管する少品種多量型の倉庫から、大型店舗のように膨大な品物を少量ずつ管理運用する多品種少量型の倉庫へとニーズが移り変わっているのだ。

「『モノづくり』のための倉庫から、『モノ配り』のための倉庫へとシフトしているのです。そうした変化を先取りして、時代が求めるソリューションを提供するのが我々の使命です」と語るのは、革新的な庫内物流システムを取り扱うジャロック代表取締役社長の斉藤力丸氏である。

例えば、倉庫の天井に取り付ける「Revolution Fans」（リボリューションファン）。ブレードの長さが最大7mの

巨大な“扇風機”は、作業員が2、3人程度の従来型の倉庫には不要な装置だ。しかし、多くの作業員が働くEC倉庫では、快適な労働環境の実現と作業効率化に欠かせない環境機器となるのだ。

こうした「モノ配り」のための倉庫に求められる、かつてない機器やシステムを提供しているのが、“物流業界の風雲児”と呼ばれるゆえんだ。

1963年に創業し、今年で58年目を迎えるジャロックは、創業当初から大手自動車メーカーの純正部品の庫内物流サービスに長く携わってきた。

「車種と年式が多く、1車種当たり数千点が必要になる自動車部品は、まさに多品種少量です。弊社は注文を受けてからタイムリーにピッキングし、翌日にはディーラーにお届けするという、今日のECと同じサービスを50年以上にわたって手掛けてきました」と斉藤社長は説明する。

その経験を通じて、「モノ配り」の物流

現場には何が求められるのかを知り尽くしていることが、同社が顧客から信頼を集めている大きな理由だろう。

また、ジャロックは庫内物流システムや機器のメーカーであるが、工場を持たないファブレス生産方式に徹している。企画力、開発力、デザイン力を発揮して、顧客ニーズにかなったシステムや機器をタイムリーにリリースしているのも同社の特徴である。

メーカーの垣根を越えて 求められるものをお届けする

「良いものであれば、自社開発にこだわることなく、他社の製品も積極的に取り扱います。大切なのは、お客様の物流現場をいかにより良くできるかということ。そのためには、我々が垣根を設けるべきではありません」と斉藤社長。

とくに物流の先進国である欧米や中国の最新ソリューションやテクノロジー部門をいち早く採り入れ、顧客に提供。海外のロボティクスメーカーと提携し、物流現場のIT化、ロボティクス化を推進している。

先ほど紹介した「Revolution Fans」も、ジャロックが発掘し、総代理店契約を結んだ米国企業の製品だ。同社は独立系メーカーとして50年以上の歴史を

保管効率・作業効率を極限まで高めた水平流動モレール格納システム「SHUTTLE RUNNER®」（シャトルランナー）の導入前後。上部空間も生かし、同じスペースで2倍のパレット商品の先入先出保管を可能にした





既存の中量ラックの上部に高さ5mの高層ラックを増設できる「タナTSumU®」(左)。高さ5mの高層ピッキング作業を可能にする「Hypick Runner®」(右)と組み合わせることで、庫内の上部空間の有効活用を大幅に進めることができる



ジャロック
代表取締役社長
齊藤力丸氏

歩んできたからこそ、系列などの制約を受けられることなく、顧客が真に求めるソリューションを提供できるのである。

もちろん、自社製品においても「お客様の困り事に応える」という思いを貫いて開発を行っている。代表的な製品が、既存の中量ラックの上部に高さ5mのラックを増設する「タナTSumU®」(タナツム)と、ラックの間を走行し、人が乗るデッキを高さ3.2mまで昇降できる「Hypick Runner®」(ハイピックランナー)だ。

人が品物をピックアップするECなどの倉庫では、手を伸ばせる高さ2m以上の上部空間がどうしても無駄なスペースになってしまう。この2つの製品を組み合わせれば、高さ5mの棚にも手が届くので、限られた倉庫スペースでも、より多くの品物が置けるようになるのだ。

「タナTSumUは既存ラックの解体や保管物の移動などをせずに増設できるので、日々の物流作業が止まることはあり

ません。また、『Hypick Runner』はフォークリフトの免許がなくても運転できますし、女性でも安全、簡単に動かして高所の品物をピッキングできます」(齊藤社長)

このように、あらゆる面で庫内作業の課題に応える配慮がなされているのが、ジャロックのソリューションなのだ。

Logistics for the futureに 貢献し「物流で感動を届けたい」

齊藤社長は、国内外メーカーとの連携をはじめ、「つながること」「つなげること」を価値創造の源泉にしていきたいと考えている。

その一つとして、2018年9月には物流関連サービス事業者とユーザーをつなぐマッチングサービス「物流SOS」を開始した。

「今は誰でもパソコンが1台あればECを始められる時代ですが、どうすれば倉庫を借りたり、段ボールを調達した

りできるのかは分かりません。そのような悩みを抱える個人や中堅・中小のユーザーとサービス事業者を結び、グルメレビューサイトのようなサービスです」と齊藤社長は説明する。

このサービスに限らず、ジャロックは中堅・中小規模のユーザーが抱える課題の解決にも力を入れており、取り扱うシステムや製品を、オペレーティングリースやサブスクリプション方式で提供する計画も進めている。

齊藤社長は、「ジャロックはLogistics for the future (未来のための物流) に貢献し、品物を受け取るエンドユーザーの方々に『物流で感動を届けたい』という強い思いを持っています。その実現のために、これからも顧客第一主義、現場・現物・現実第一主義の経営理念の下、弊社にしかできない先端的な物流ソリューションを提供していきます」と語った。

Ad

悪路走行や搬送物の揺れに強いクローラー式台車「Carry Runner®」(キャリーランナー)。
折板屋根(左)などの凸凹道や雪道(右)などの悪路でも振動を抑制し、搬送物を衝撃から守る



お問い合わせ

Jaroc

株式会社ジャロック
TEL 03-3367-3810

所在地/〒164-0011

東京都中野区中央2-59-18 ジャロックビル

<https://www.jaroc.com/>